

McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P. F. (eds.):  
The Historical Development of Physiological  
Thought. Hahner, New York. 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の変更や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日ま

### 編集後記

掲載論文の質を一定の水準に保持するためには査読が不可欠である。本誌も原著および研究ノートに分類される論文を対象に実施している。査読者にはその領域において深い知識を有している会員の一人あるいは複数の方をお願いしているが、論文の誤字・脱落・スペルの誤りといったことに対する指摘も含めて実に綿密な査読をしていただいている。いつも頭の下がる思いで意見書を拝読している。ときには投稿者から掲載の可否についての決定が遅いとお叱りをうけることもあるが、意見書の内容をみていただければ査読に時間がかかっていたことの原因も

で返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上がり一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒二二〇〇三 東京都文京区本郷六一一七一九 網ビル

財団法人日本学会事務センター学会共同編集室内、  
日本医史学雑誌編集委員会

理解していただけたらと思う。▼本号より全国の主要な文庫の来歴と概要・図書目録・所在地・利用法を紹介する「文庫めぐり」が始まりました。紙面の都合で不定期の連載となりますがお楽しみください。▼いよいよ来年一月一日より本誌の原稿の送り先が順天堂大学から右記の投稿規定の一〇に記載された機関に移ります。当機関のTELは〇三―三三―八一四―一三六三、FAXは〇三―三三―八一四―一三六二。二〇〇〇年という区切りの年に事務体制も新しくなり、新たな出発です。

(新村 拓)